

太陽光発電の導入

2013（平成25）年4月、3工場に太陽光発電を導入したのに続き、昨年までに6工場全部に設置した。合計380キロワットの発電能力があり、一般家庭50世帯相当の電力を発電している。地球温暖化にも貢献していることになる。夏季には工場の屋根が70度近くまで熱せられるが、発電パネルの影になり20度近く温度が下がるため、エアコンの効きが良くなる。これは大きな副産物だ。現在の発電量や売電料などは海外からでもスマホでチェックできる。

原発の代替として自然エネルギーの比率を上げることは国家の政策であるが、私は行政の判断に二つの疑問を持った。一つは民間に早期に導入させた

伊藤製作所社長

伊藤 澄夫 22



工場の屋根に設置した太陽光発電パネル

いと考えたのだろうが、売電価格が高すぎる点。売電する側からして、高い

行政当局に物申す

ほうが良いという理屈は私にとつては理解できない。当社は今年8月に福利厚生施設が完

成する。現在の売電価格は初期の半値以下と

過去にもこのような例はいくつもあつたが、当局は何も学習できていないよ

うだ。基礎技術高度化に関する法案など

で、中小企業が補助金をいただけることとはありがたいが、工作機械メーカーなどは同様に山谷に頭を抱えることになる。記憶から薄れそうだが、オイルショックの時期、大阪の誰かがトイレットペーパーがなくなるといふデマを流した。国中の主婦がパートで買いまくったその時期、妻に「そんなことはありえない。みつともない買い物するなよ」と、言った記憶がある。案の定、買い占め後のトイレットペーパーはその後、長期間売れず、多くのメーカーは大減産となった。済んだことは仕方がないとして、当局には今後、行政を正しい方向に導いていただきたい。